

火山活動の現状の評価の審議のための資料、現状の評価の評価文
及び調査研究方針について(案)

○評価文の作成(令和6年4月23日 第1回火山調査委員会)

- ・調査観測データや研究成果を総合的に分析して、現象の解釈やメカニズムの推定等を行うとともに、今後の火山活動の推移や噴火の切迫性、自然現象に係るハザード等の評価して、評価文として取りまとめる。
- ・現状、総合的な評価のための基礎資料について、並行して収集、整理していくことを踏まえ、当面評価文は可能な範囲で作成。

※評価文の構成(イメージ)

*調査観測結果

(地震活動、地殻変動、熱活動、噴出物調査結果 等)

*現象の解釈、メカニズムの推定

(マグマの関与の有無、噴火規模、様式 等)

*想定される火山活動の推移等

(想定される火山活動の推移について、噴火の切迫性や推定される自然現象に係るハザードを含めて評価)

等

○現状の評価の審議のための資料案

秋頃に行う 111 火山の現状の評価の審議のため、調査観測結果に関する資料を関係行政機関や国立研究開発法人において作成。

- ・調査観測結果に関する資料
 - 文部省測地学審議会の建議に基づいて設置された火山噴火予知連絡会(事務局:気象庁)における全国の火山活動の評価で用いていた資料を参考に、地震活動や地殻変動、熱活動、噴出物等について、火山観測施設や、機動調査観測、地震の基盤観測網、リモートセンシング等で得られた結果について資料を作成。
 - 各火山で火山観測施設の整備状況や、取得できる観測データ等に違いがあることに留意が必要。

年明けに行う、重点的な現状の評価では、調査観測結果に関する資料に加え、現象の解釈やメカニズムの推定等や想定される火山活動の推移等の研究成果等を収集、整理し、審議に資する資料を作成。

- ・ 現象の解釈やメカニズムの推定等の審議に資する資料
 - 火山噴火予知連絡会や研究開発プロジェクト、関係行政機関等で検討し公表されている基礎情報調査の結果（地下構造モデル、噴火履歴等）や現象の解釈、メカニズムの推定等に関する調査研究結果を収集、整理。
 - 各火山で基礎情報調査の実施状況や調査研究の進捗に違いがあることに留意が必要。

- ・ 想定される火山活動の推移等の評価の審議に資する資料
 - 火山噴火予知連絡会や研究開発プロジェクト、関係行政機関等で検討し公表されている火山学的な噴火シナリオや階段ダイアグラム、噴火事象系統樹等を収集、整理。
 - 各火山で、調査研究の進捗に違いがあることに留意が必要。

○評価文案

秋頃の 111 火山の現状の評価では、資料を元に、概括的な評価文を取りまとめる。また、年明けの火山調査委員会における重点的な現状の評価については、現象の解釈やメカニズムの推定等を含め、より詳細に評価文を取りまとめる。

- 各火山の調査研究方策の作成（令和6年4月23日 第1回火山調査委員会）
- ・各火山の調査研究方策は、今後策定する調査観測計画に基づく常時観測や基盤調査に加え、火山調査委員会において、総合的な評価結果等を踏まえ、評価に必要となる、機動観測による更なる調査観測項目や、類似火山の事例等、収集・整理・分析すべき事項を火山毎に整理したもの。
 - ・想定される噴火規模や観測期間に応じて、複数のシナリオを考慮。
 - ・作成した各火山の調査研究方策は、火山調査委員会による総合的な評価等を踏まえて必要に応じて見直し。
- ※調査研究方策の構成（イメージ）
- *評価のために強化すべき機動調査観測項目
（地震観測、地殻変動観測、熱・火山ガス観測、噴出物調査 等）
 - *収集すべき類似火山の事例
（火山活動の推移、噴火規模、様式、発生したハザード 等）
 - *考慮すべき複数のシナリオ
（山頂噴火／山腹噴火、短期（～1年）／中期（～数年） 等）
- ・定例開催においては、噴火中や火山活動に変化が見られる火山あるいは調査観測が不足する火山について優先的に作成。令和6年度以降、数火山で試行的に作成。
 - ・臨時開催においては、当該火山について作成

○調査研究方策案

- ・年明けの火山調査委員会では、秋頃の委員会で選定した重点的に現状の評価を実施する火山（2～3火山）について、火山活動の現状の評価を踏まえ、また、参考事例として、平成10年7月14日の火山噴火予知連絡会拡大幹事会による「岩手山の火山観測体制について」を踏まえつつ、各火山の調査研究方策を取りまとめる。

（今回の検討用資料）

火山観測施設の整備状況や取得できる観測データ等の違いや、基礎情報調査の実施状況や調査研究の進捗に違いがある伊豆大島^{*}、白山^{*}、八幡平、口之島、福徳岡ノ場について資料及び資料を基にした評価文、調査研究方策のサンプルを作成。

※活動火山対策のために観測、測量、調査及び研究の充実等が必要な火山

検討用資料の火山毎の違い

	火山観測施設の 有無と整備して いる機関	火山観測施設 みのデータを用 いて震源や地殻 変動の解析	地震の基盤観測 網のデータを用 いた震源や地殻 変動の解析	火山噴火予知連絡会 等で取りまとめた基 礎調査資料や現象の 解釈、メカニズムの 推定等の成果の有無	火山噴火予知連絡 会等で取りまとめ た火山学的な噴火 シナリオ等の有無	【参考】活動火山対 策のために観測、測 量、調査及び研究の充 実等が必要な火山(第 1回政策委員会決定)
伊豆大島 (陸上・島)	有 気象庁、国土地理 院、防災科学技術 研究所、東京大学 地震研究所	可	可	有	有	○
白山 (陸上)	有 気象庁、京都大学 防災研究所	不可	可	(調査中)	(調査中)	○
八幡平 (陸上)	無	不可	可	(調査中)	(調査中)	×
口之島 (陸上・島)	無 (国土地理院の 電子基準点あり)	不可	不可 (観測網の外側)	(調査中)	(調査中)	×
福德岡ノ場 (海域)	無	不可	不可 (観測網の外側)	(調査中)	(調査中)	×